

〈中学校国語〉

豊かな言語感覚と語彙を身につける指導の工夫

— ことばノートを活用した表現活動を通して —

うるま市立伊波中学校教諭 三 藤 康 治

I テーマ設定の理由

近年の社会構造や雇用環境の急速な変化とともに、人工知能(AI)もまた飛躍的な進化をとげてきた。そんな中、今日の学校教育においては様々な変化と積極的に向き合い、他者と協働して課題の解決に取り組んでいく児童・生徒の育成が求められている。

こうした状況を踏まえ、中学校で平成30年度より移行措置が実施される次期学習指導要領では、知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が推進されている。その際「生徒の発達段階を考慮して学習の基盤をつくる活動（＝生徒の言語活動など）の充実」等への配慮が求められている。言語活動（観察・実験のレポート作成、問題解決的な学習等）の充実に図るためには「言語能力の確実な育成」が不可欠であり、今回の改訂における改善事項の一つにも挙げられている。「言語能力の確実な育成」は「発達の段階に応じた、語彙の確実な習得、意見と根拠、具体と抽象を押さえて考えるなど、情報を正確に理解し適切に表現する力の育成」など、国語科を中心に各教科の特質に応じて行われなければならない。

その中でも「語彙」は、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤をつくる言語活動を支える柱であり、発達の段階に応じて量と質の両面から充実させること（＝語彙を豊かにすること）は極めて重要である。また、中央教育審議会答申（平成28年12月）においても「小学校低学年の学力差の大きな背景に語彙の量と質の違いがあるとの指摘を踏まえ、思考を深めたり活性化させたりしていくための語彙を豊かにするなど、語彙量を増やしたり語彙力を伸ばしたりして、語彙を生活の中で活用できるよう指導の改善・充実に図ることが重要である。」と指摘されている。

さらに本校生徒も、今年度の全国学力・学習状況調査の結果から「相手に分かりやすいように語句を選択して話す」（県正答率との差：－14.9）、「文脈に即して漢字を正しく書く」（同：－12.9）、「表現の仕方について捉え自分の考えを書くことができる」（同：－15.9）など語彙に関する設問に課題がみられた。これまでの語彙指導においては、語彙の量を増やしたり「言語感覚」（＝言語で理解したり、表現したりする際の正誤・適否・美醜などについての感覚）を養うことの重要性を認識しつつも、国語辞典で言葉の意味や用法を確認した後は教師主導で文章読解を進める形態が多く、言葉が醸し出す味わい等について考えさせたり感覚的に捉えさせたりすることがあまりなかった。

しかし、現行の学習指導要領（平成20年3月公示）に続き、今回の改訂でも中学校国語科の目標として「言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし…（中略）」と明記されている。

本研究では、言語感覚を「言葉の正誤・適否・美醜などについて考える能力」と捉え「言語感覚」と「語彙」の二つを豊かにすることが言語活動を充実させるとともに「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」の育成につながると考える。そこで今回は、日常生活の中で生徒が自ら言葉を書き溜めた「ことばノート」を作成し、活用していく。表現活動において、ことばノートを活用し「言葉による見方・考え方」を働かせながら交流する活動を行うことで「言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり国語を尊重してその能力の向上を図る態度（＝学びに向かう力・人間性等）」を養うとともに、「社会生活に必要な知識（＝語彙）及び技能（＝言語感覚）」を身につけさせたいと考え、本テーマを設定した。

II 研究目標

生徒が自ら「ことばノート」を作成し、それを表現活動に活用することで「学びに向かう力・人間性等」を養うとともに、言語感覚（＝言語の正誤・適否・美醜などについて考える能力）を豊かにし、語彙を確実に習得させる指導の工夫を研究する。

Ⅲ 研究仮説

1 基本仮説

表現活動において、生徒自身が作成した「ことばノート」を活用することによって生徒の言葉に対する認識が深まり、豊かな言語感覚と語彙を身につけることができるであろう。

2 具体仮説

- (1) 感想を書き、交流する場面において、別の表現での言い換えを考える活動を通して、言葉の正誤・適否・美醜等について吟味する契機になるであろう。
- (2) ことばノートを作成する活動において、生徒自身でテーマを設定し、日常生活の中から言葉を集めることによって、表現活動で使うことができる語彙の量が増すであろう。

Ⅳ 研究の全体構想図



V 理論研究

1 「主体的・対話的で深い学び」について

次期学習指導要領ではアクティブ・ラーニングの視点に沿った「主体的・対話的で深い学びの実現」を図るよう明記されている。また「主体的・対話的で深い学び」の具体的な内容については、中央教育審議会答申(平成28年12月)において以下のように整理されている。

主体的な学び	学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる(子供自身が興味を持って積極的に取り組むとともに、学習活動を自ら振り返り意味付けたり、身に付いた資質・能力を自覚したり、共有したりすることが重要である)。
対話的な学び	子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める(身に付けた知識や技能を定着させるとともに、物事の多面的で深い理解に至るためには、多様な表現を通じて、教職員と子供や、子供同士が対話し、それによって思考を広げ深めていくことが求められる)。
深い学び	習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じ「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう(子供たちが、各教科等の学びの過程の中で、身に付けた資質・能力の三つの柱を活用・発揮しながら物事を捉え思考することを通じて、資質・能力がさらに伸ばされたり、新たな資質・能力が育まれたりしていくことが重要である。教員はこの中で、教える場面と、子供たちに思考・判断・表現させる場面を効果的に設計し関連させながら指導していくことが求められる)。

また同時に、これら三つの視点は「子供の学びの過程としては一体として実現されるものであり…(中略)…授業改善の視点としてはそれぞれ固有の視点であることに留意が必要である。単元や題材のまとまりの中で、子供たちの学びがこれら三つの視点を満たすものになっているか、それぞれの視点の内容と相互のバランスに配慮しながら学びの状況を把握し改善していくことが求められる。」とも記されている。

上記定義を基に本研究における「主体的・対話的で深い学び」の内容を以下のように整理する。

主体的な学び	(1) 学習の見通しを立てたり振り返ったりする場面において、主体的に計画を立てるとともに、活動を振り返って意味づけたり、身についた力を自覚・共有したりすることができる。 (2) ことばノートを作成する場面において、生活の中で出会うことばにアンテナを張り、積極的にことば集めに取り組むとともに、活動を振り返ったり身についた力を自覚・共有したりすることができる。
対話的な学び	(1) 感想の言い換えを相談したり相互評価をしたりする場面において、対話を通して表現を吟味し、言葉にこだわって思考を広げ深めることができる。 (2) ことばノートを互いに見せ合い、コメントを記入する場面において、対話を通して思考を広げ深めることができる。
深い学び	(1) ことばノートを活用した感想まとめや相互評価を行ったり、発表や交流を通して言葉の正誤・適否・美醜等について考えたりする場面において、言語感覚を豊かにし、語彙を確実に習得できる。

2 「言葉による見方・考え方」について

「各教科等の特質に応じた見方・考え方」について中央教育審議会答申(平成28年12月)では「各教科等の学びの過程において鍛えられていく“どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか”という、物事を捉える視点や考え方」だと示している。

言葉を通じた理解や表現など、言葉そのものを学習対象としている国語科においては「言葉による見方・考え方」として以下のように定義されている。

自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味付けること。

上記を踏まえ、本研究との関わりを以下のように整理した。

言葉による見方(視点)を働かせる場面	言葉の意味や使い方を考えながら読解したり、ことばノートを作成・活用したりする場面
言葉による考え方(思考)を働かせる場面	ことばノートの表現を使った感想まとめや相互評価を行ったり、読解の中で、交流を通してよりよい表現(正誤・適否・美醜等)がないか吟味したりする場面

3 「言語感覚」について

言語感覚については「中学校学習指導要領解説 国語編」(平成 29 年 6 月公示)において「言語で理解したり表現したりする際の正誤・適否・美醜などについての感覚のことである。…(中略)… 相手、目的や意図、場面や状況などに応じて、どのような言葉を選んで表現するのが適切であるかを直観的に判断したり、話や文章を理解する場合に、そこで使われている言葉が醸し出す味わいを感覚的に捉えたりすることができることである。」とまとめられている。

また、浅田孝紀氏の研究論文(1992)においては、代表的な概念規定の一つとして「言語に対するセンス。一々の言語活動の具体的な場面に当たって、どのような表現活動をするのが最も適切であるかを判断し、また理解活動について、与えられた表現を最も適切に評価する能力である。」という林大氏による概念規定を引用している。

本研究においては「言語感覚＝言葉の正誤・適否・美醜などについて考える能力」と定義し、以下の場面で「言語にこだわり、吟味する活動」を取り入れていく。

場面	言語にこだわり、吟味する活動
(1) 文章読解	① 語句を言い換えたとき、どのような印象(味わい等)の違いがあるかを考えさせる。 例、「念じる」と「思う」の違い など ② 情景描写で描かれた主人公の心情を読み取らせる。 例、「…広々と薄ら寒い海が開けた。」 など
(2) 感想まとめ・交流	① 読解後の感想まとめの際に、ことばノートから正誤・適否・美醜等を意識しながら語句を探させる。 例、「苦情」「文句」「クレーム」 など ② 感想発表・交流の中でよりよい(正誤・適否・美醜等)表現がないか吟味したりさせる。 例、「痛々しい」「かわいそう」「気の毒」 など

4 「語彙指導」について

「語彙」とは「一つの言語の、あるいはその中の特定の範囲についての、単語の総体(広辞苑)」であり、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる重要な要素である。

また、中央教育審議会答申(平成 28 年 12 月)においても「小学校低学年の学力差の大きな背景に語彙の量と質の違いがある」との指摘を受けたことを踏まえ、次期学習指導要領では全学年の指導内容として「…語感を磨き語彙を豊かにすること」と明記し、量と質の両面からより一層「語彙を豊かにする指導の改善・充実」が図られることとなった。

語彙の「量を増やす」ことに関して、一学年では「事象や行為、心情を表す語句の量を増やす」ことを、「質を高める(理解を深める)」ことに関しては「語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意する」ことを指導の重点としている。

本研究では、語彙を量と質の両面から豊かにする(＝語彙の確実な習得を目指す)指導の一環として生徒自身で「ことば」を集めた「ことばノート」(後述)を作成させるとともに、実際の表現に活用させていきたいと考える。

(1) さいたま市立〇小学校の取り組み

さいたま市内の〇小学校では「自分が得た情報や技能を、自分の考えとして感想や評価を明確に述べること(力)」を「感想力」と定義し、また感想を書く際に必要な「感想語彙」を児童の発達段階に応じて「使えるようにしたい言葉」「分かるようにしたい言葉」として「言葉カード」を作成・配布し、教育活動全般で活用している。

表 1 感想語彙を増やすための取り組み(さいたま市内〇小学校)

	感想語彙を増やす力(言葉カードの活用)
低学年	「言葉カード」の中から、自分の気持ちに合うものを選んで書く。
中学年	「言葉カード」の「使えるようにしたい言葉・分かるようにしたい言葉」の組み合わせを考える。
高学年	「言葉カード」を活用し、簡単な形容詞を使わずに自分の言葉で表現する。

図1 言葉カード(高学年)

- 図工の授業で愛着のある作品が…
- …ということを共感しました。
- この思い出を脳裏に焼き付けて…
- …作るのに没頭しました。
- …興味津々で、まわるのが大変でした。

図2 児童の日記(下線部は言葉カードにあるもの)

本研究では、これらの取り組みと合わせて、宗我部義則氏が実践している「言葉の宝箱ノート(=自分のお気に入りのノートを使って自由に言葉を集める)」を参考に「ことばノート」の作成・活用を実践する。「ことばノート」は「生徒自身でテーマを設定し、生活の中からことばを集めることによって、実際に使える語彙の量を増やし、質を高める」ことを目指し以下の流れで取り組んでいく。

便宜上、現段階では「ことばノート」と呼称しているが、年度末に製本し、生徒はそれぞれ自分の「ことばノート」の名前(タイトル)を自分で考える。

作成については、以下の流れで取り組んでいく。

- ① 学年の廊下に用紙・見本などを設置する。
- ② 最初の数回は教師がテーマを提示する。
- ③ 慣れてきたら、**自分でテーマを設定して**取り組む。
 - ※ 本・雑誌・新聞・テレビ・インターネット…など、生活の中のあらゆるものから「ことば集め」を行う(付箋紙なども活用)。
- ④ 枠の上の段に意味か使い方を、下の段には**自分で例文を**考えて記入する。
 - ※ **使い方や例文を考えることに重点を置かせる**
- ⑤ 自由記入欄「わたしの黄金言葉(くがにことば)」を設け、**お気に入りの「ことば」**を一言コメントとともに書き、友人と交流する。
- ⑥ 1週間~10日に一回程度、点検・コメントによる激励・助言を実施する。
- ⑦ 年度末に製本し、自分のことばノートの「名前(タイトル)」を各自で考える。

図3 実際に使用することばノート

図4 ことばノートの記入例

VI 指導の実際・仮説の検証

1 検証授業Ⅰ：平成29年11月17日(金)実施

(1) 単元名(教材名) 5 読みを深め合う(少年の日の思い出)

(2) 単元(教材)の目標

- ① 場面展開や人物描写に着目して、登場人物の心情を捉える。
- ② 作品の構成の工夫を読み取り、その効果について自分の考えをもつ。

(3) 本研究テーマとの関わり

本研究では「豊かな言語感覚と語彙を身につける指導の工夫—ことばノートを活用した表現活動を通して—」とテーマを設定し、言語活動に必要な「豊かな言語感覚の育成」と「語彙の確実な習得」を目指した指導の工夫を目的としている。

今回の授業では、具体仮説(1)の「感想を書き、交流する場面において、別の表現での言い換えを考える活動を通して、言葉の正誤・適否・美醜等について吟味する契機になるであろう。」の検証を行う。心情描写が巧みな本教材の読解を進める中で印象に残ったこと・気になる表現に線を引かせたりそれを引用して「ひと言感想」をまとめ交流したりする学習を通して、今後のことばノート作成・活用の契機になると考える。

(4) 単元(教材)について

① 教材観

本教材は、少年時代に盗みを犯したが故に大人になっても拭い切れない心の傷を抱えた「僕(=客)」と、僕の少年時代の隣人(エーミール)との出来事が物語の中心になっている。時間の流れや場面構成も整理しやすく「僕」の葛藤や心の揺れに関する描写も巧みで心情の変化を読み取ったり、語彙に関心をもたせたりするのに適した教材である。

② 生徒観

ア 単元・教材に対する生徒観

生徒たちは、一学期の物語教材「オオカミの友だち」「空中ブランコ乗りのキキ」で場面展開や人物描写、気持ちの変化を捉えることや注意して読むことを学習しているが、今回はさらに、文章中の語彙の文脈上の意味に着目させながら、感想のまとめにつなげたいと考える。

イ 生徒の実態

男女とも活発に発言できる生徒が数名ずつおり、一年生らしく素直な学級である。これまでの定期テストでは、いずれも学年の平均を上回っているが男女差が大きい。今回実施した「言葉(ことば)の学習に関するアンケート」では「言葉(ことば)の学習が好きだ」と答えた生徒が57.7%であったのに対して、「得意である」答えた生徒は23.1%であった。特に「こそあど言葉(指示語)」「つなぐ言葉(接続語)」「言葉の種類」といった文法事項に関する苦手意識が見られた。しかし「習った(知った)言葉(ことば)を生活の中で使いたい」と答えた生徒は96%にも上った。

本教材では既習事項を踏まえ、人物描写や心情の変化を読み取らせる中で、語句の文脈上の意味に着目させながら語彙に関心をもたせたい。

(5) 指導観

文章の中で、特に印象に残ったことや注目した表現に触れながら一言で感想をまとめ、交流する活動を通して、気持ちの伝え方にもさまざまな表現(言葉)があることに気づかせたい。

【うるま市具体的実践9項目との関わり(平成29年度重点項目)】

具体的実践9項目	本時における具体的関わり
1 ねらいを明示した授業の実施	①授業開始時の「めあて」の確認と提示 ②授業終了前の「めあて」に沿った「まとめ」の実施
7 自己評価の実施	①習得(「学びの変容」「交流の振り返り」と探求 (「次につなげる」)の視点からの自己評価の実施

(6) 単元(教材)の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○登場人物の心情の変化を捉えようとしたり、構成上の効果について自分の考えをもとめたりしている。	○場面展開や人物描写に着目して、登場人物の心情の変化を捉えている。 ○作品の構成の工夫を読み取り、その効果について自分の考えをもつ。	○事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めている。

(7) 単元(教材)の指導計画・評価計画

	学習目標及び主な学習活動	評価規準・評価方法
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本文を通読し登場人物の関係を捉えることができる</div> ○本文を通読する ○登場人物の関係を整理する	{関} 登場人物やそれらの関係を整理しようとしている {読} 登場人物の関係を確認・整理し人物設定を捉えている {言} 「貧弱」などの語句を理解し語感を磨き語彙を豊かにしようとしている [ノート・ワークシートの確認]
2 ・ 3	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">場面展開や人物描写に着目して登場人物の心情を捉えることができる</div> ○登場人物の視点に沿って人物像を捉える ○場面に沿って人物の行動と心情の変化を捉える	{関} 場面展開や人物描写に着目して登場人物の心情の変化を積極的に捉えようとしている {読} 場面展開や人物描写に着目して登場人物の心情の変化を理解し整理している {言} 「優雅」など描写に使われている語句について文脈上の意味を理解し深めている [ノート・ワークシートの確認]
4 ・ 5	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">多角的な視点で言動や心情の解釈を深めることができる</div> ○最終場面の描写から行動の意味や心情を読み取る ○「私」の立場で小説の続きを考える	{関} 登場人物の言動や心情について積極的に話し合い小説の続きを考えようとしている {読} 登場人物の言動や心情について積極的に話し合い小説の続きを整理している {言} 「冷淡」「あなどる」などの人物に関する語句について文脈上の意味を理解し深めている [ノート・ワークシートの確認]
6 本 時	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">同じ気持ちの伝え方にもさまざまな表現があることに気づくことができる</div> ○印象に残った表現を引用して感想を一言でまとめる ○交流活動を通して別の表現を考える	{関} 積極的に感想をまとめ、交流の中で言い換えの表現を考えようとしている {言} 交流を通して同じ気持ちの伝え方にもさまざまな表現があることに気づいている [ノート・ワークシートの確認]

(8) 本時の指導

「同じ気持ちの伝え方にも、さまざまな表現があることに気づくことができる。」(6/6 時間)

① ねらい

グループで感想を発表し、別の表現を考える活動を通して、気持ちの伝え方にもさまざまな表現(言葉)があることに気づかせる。

② 授業仮説

感想を書き、交流する場面において、感想の「言い換え」を考える活動を通して、言葉の正誤・適否・美醜等について吟味し、さまざまな表現があることに気づくであろう。




③ 本時の観点別評価規準

評価の観点	「国語への関心・意欲・態度」「言語についての知識・理解・技能」
評価規準	積極的に感想を交流し、さまざまな表現があることに気づくことができる。
評価方法	授業内：観察・机間指導 授業後：ワークシートの提出

④ 「めざす子どもの姿」の実現に向けた授業改善（教材・発問・問い返し・過程の工夫等）

場面	工夫点（発問等）	子どもの姿
主体的に「問い」をもち、自分なりの考えをもつ		
ひと言で感想をまとめる場面	〔指示〕 印象に残った表現や出来事を引用しながら、一言で感想をまとめてみましょう。 ただし「すごい」だけは使わないで書いてみましょう。	「どこから引用するか」「感想をどんなひと言であらわすか」などを考える。（個人）
他者との交流を通し、「問い」が生まれ自分の考えを広げ深める		
別の言い換えを考える場面	〔指示〕 それでは、今まとめた「ひと言の感想」と同じ気持ちを別の表現で考えてみましょう。	交流する中で言い換えた表現を吟味したり訂正したりする。
学びの過程を振り返り、新たな「問い」をもつ		
本時のまとめの場面	〔発問〕 今日の授業を終えて何か気がついたことはありますか？	いろいろな表現の中で、適した言葉を選んで使っていくことが大切であることに気づくことができる。

⑤ 展開

過程	学習活動・内容・発問・形態等	予想される児童・生徒の反応	指導上の留意点、評価等	9項目
導入 (5)	1. 前時の学習を思い出しながら本時のめあてを確認する。 {ペア}	○周囲と相談できない生徒・目標や流れを理解できない生徒が数名出てくる。	◇ペアで相談する雰囲気を作らせ 本時の学習の流れを簡潔且つ明確にする。	1 ・ 2
展開 1 (10)	2. ワークシートに一言感想をまとめる。  ひと言感想まとめ(個人)	「～はムカつく」 「～は嫌なやつ」 など	◇これまでチェックした箇所から一つだけ引用させる。 ◇机間指導しながら声かけをしていく。 感想交流し言い換えの表現を考える(グループ)	2 ・ 3 ・ 4 ・ 6 ・ 9
展開 2 (15)	3. グループで感想を交流しあい別の表現を考える。 {グループ}	「～はとんでもない」 「～汚いやつ」 など	◇机間指導しながら一人ですごしている生徒に声をかけ参加を促す。	
展開 3 (10)	4. 	代表者による各グループで出てきた意見の交流		
	5. 本時のまとめを考える {一斉}		◇自分や友達の見解を整理させる。	

まとめ (10)	6. 本時の振り返りをする。	○自己評価と本時の振り返りを行う (1~2名発表)。	◇自己評価を記入後、ワークシートを回収する。	7
	7. 次時の予告	○教師の話聞き今後の取り組みを確認する。	◇「ことばノート」の取り組みについて簡潔に予告をする。	

⑥ 事後の取り組み

後日、「ことばノート」について説明し、取り組みを開始した。

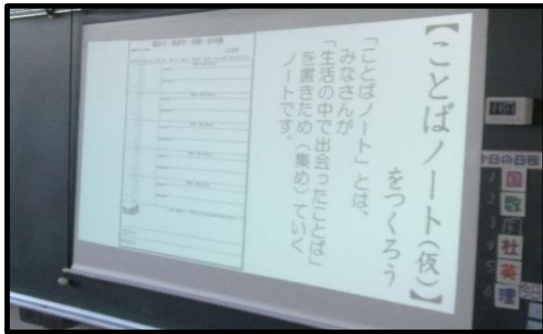


図5 ことばノートの解説

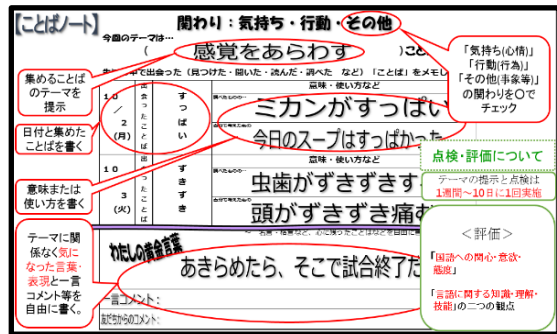


図6 ことばノートの記入例

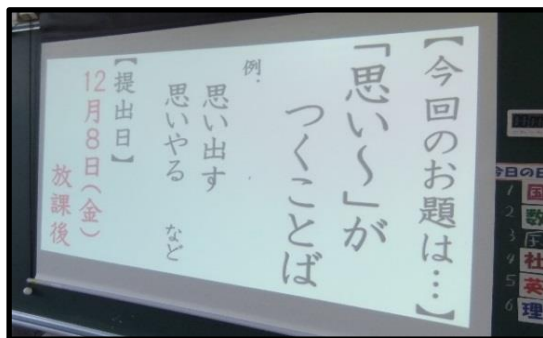


図7 今回のテーマの確認



図8 設置したことばノートコーナー

間わり：気持ち・行動・その他		ことば
11/29(木)	思いがえす	出陣を思いがえす。思いを思いがえす。
11/29(木)	思いが	物事を思いが。あふことを思いが。11にことを思いが。
11/29(木)	思いがきり	思いがきり力をこめる。思いがきりアヒスする。
12/5(火)	思いが上がる	テストでい点とて思いが上がる。オ디션のように思いが上がる。
12/6(水)	思いが	思いがかりのい。確を思いががる。

死ねきでかい死なないから

一言コメント：そうだなあと思った。

友だちからのコメント：「おこえり」

図9 実際に生徒Aが作成したことばノート

間わり：気持ち・行動・その他		ことば
11/29(木)	思いが知る	所詮井の中の蛙たることを思いが知る。自分だけが舞い上がっていたのたと思い知る。
12/7(水)	思いが当たる	そう言われれば思いが当たることもある。思いが当たる節もいくつかある。
12/7(水)	思いが違い	何か思いが違いがあるようです。どうやら思いが違ってたようた。
12/7(水)	思いが余る	彼女は思いが余って上司に相談した。思いが余って母親にきいてみる。
12/7(水)	思いが合わせる	あこれと思いが合わせて迷う。いろいろ思いが合わせると彼の行動は納得できる。

常にガムシヤうなことは本気なのかよ (国見 英)

一言コメント：本気の基準でどこからかんだらうと考えさせられました。

友だちからのコメント：おこえり

図10 実際に生徒Bが作成したことばノート

2 検証授業Ⅱ：平成30年1月30日(火)実施

(1) 単元名(教材名) 7 つながりを考える(トロッコ)

(2) 単元(教材)の目標

- ① 情景描写・行動描写・心情の変化を読み取る。
- ② 表現の工夫や特徴について考えをもつ。

(3) 本研究テーマとの関わり

本研究では「豊かな言語感覚と語彙を身につける指導の工夫 - ことばノートを活用した表現活動を通して - 」とテーマを設定し、言語活動に必要な「豊かな言語感覚の育成」と「語彙の確実な習得」につながる指導の工夫を目指している。

今回は、具体仮説(2)「ことばノートを作成する活動において、生徒自身でテーマを設定し、日常生活の中から言葉を集めることによって、表現活動で使うことができる語彙の量が増すであろう。」の検証を行う。印象に残った表現として線を引いたものやことばノートに書き溜めた表現を引用しながら感想を書いたり、相互評価の中でより効果的な表現を考えたりする活動を通して、ことばノートを活用し表現活動で使うことができる語彙の量を増やすことができるであろう。

(4) 単元(教材)について

① 教材観

本教材は、少年時代のトロッコ体験を大人になって回想している良平の姿が三人称視点で描かれている。情景描写等の効果について話し合う学習などを通して、小説を読み味わう楽しさを感じさせるとともに、語彙に関心をもたせたりするのに適した教材である。

② 生徒観

ア 単元・教材に対する生徒観

生徒たちは、これまでの物語・小説教材で場面展開や人物描写、気持ちの変化を捉えることや注意して読むことを学習しており、また「少年の日の思い出」では「語り手はだれか?」を意識して読むことで小説の構造の仕組み・工夫についても学習している。今回も終始「三人称視点」で語られていることに気づかせ、その効果を考えさせたい。

イ 生徒の実態

男女とも活発に発言できる生徒が数名ずつおり、一年生らしく素直な学級である。これまでの定期テストではいずれも学年平均を上回っているが、男女差が大きい。

第1回検証授業(11月)後に実施したアンケートでは、約30%の生徒が言葉の「正誤」「適否」を考えながら取り組むことが「あまりできなかった」「できなかった」と回答し「言葉の美醜を考えながら取り組むことができたか」との質問には、60%もの生徒が「あまりできなかった」「できなかった」と回答している。また、ことばノートの作成・活用については、作成が「できている」「まあまあできている」と回答した生徒が64%に対し、集めたことばを「実際に使っている」「まあまあ使っている」と答えた生徒は48%であった。本教材では巧みな人物描写や情景描写を通して小説を読み味わう楽しさを感じさせるとともに、その美醜について考えさせるなど表現にこだわり、語彙に関心をもたせたい。

(5) 指導観

本時では印象に残ったことや注目した表現を引用しながら、まず個人で読後の感想をまとめさせる。次に感想を3~4名のグループ内で交流する中で相互評価を行うとともに互いの感想についてより効果的な表現がないか考えさせたい。その際、生徒たちには相互評価をするための観点を提示する。その後、交流で出た意見を基に、再度個人で感想の手直しをする。

これらの場面において、ことばノートを積極的に活用させることで、言葉の正誤・適否・美醜等について吟味するとともにより効果的な表現を考える活動を通して、表現活動に必要な語彙力と表現力を高める契機としたい。

【うるま市具体的実践9項目との関わり(平成29年度重点項目)】

具体的実践9項目	本時における具体的関わり
1 ねらいを明示した授業の実施	①授業開始時の「めあて」の確認と提示 第1時で生徒と立てた学習計画を再確認しながら提示 ②授業終了前の「めあて」に沿った「まとめ」の実施 めあてを基に「わかったこと」「気づいたこと」「疑問点」のまとめ

7 自己評価の実施	①「わかったこと」「交流の感想」「疑問点」の三つの視点から実施
-----------	---------------------------------

(6) 単元(教材)の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○主人公の心情の変化を読み取るうとしたり、表現の工夫や特徴について考えをもととしたりしている。	○情景や行動の描写に表現されている、主人公の心情の変化を読み取っている。 ○文脈の中のことばの意味を的確に捉え、表現の工夫や特徴について考えをもっている。	○事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めている。

(7) 単元(教材)の指導計画・評価計画

No.	学習目標及び主な学習活動	評価規準・評価方法
1	<p>学習計画を立てることができる</p> <p>○単元(教材)の学習目標を確認する。 ○学習目標を踏まえてゴールに向けた学習計画を立てる。</p>	<p>{関} 学習目標を確認し、主体的に今後の学習計画を立てようとしている。 [ノート・ワークシートの確認]</p>
2	<p>全文を読み、初発の感想をまとめることができる</p> <p>○気になる表現に線を引きながら音読する。 ○場面構成を確認し、初発の感想をまとめる。</p>	<p>{関} 積極的に音読し、話し合いに参加している。 {読} 場面構成を考え、初発の感想をまとめている。 [ノート・ワークシートの確認]</p>
3	<p>良平の気持ちを読み取ることができる</p> <p>○第1・2の場面を読み、立場を決めて話し合う。 ○情景描写から良平の気持ちを読み取る。</p>	<p>{関} 積極的に音読し、話し合いに参加している。 {読} 情景描写を基に主人公の心情を読み取っている。 {言} 「有頂天」などの語句を理解し語彙を豊かにしようとしている。 [ノート・ワークシートの確認]</p>
4	<p>良平の気持ちの変化を読み取ることができる</p> <p>○第3・4の場面を読み、立場を決めて話し合う。 ○情景描写から良平の気持ちの変化を読み取る。</p>	<p>{関} 積極的に音読し、話し合いに参加している。 {読} 情景描写を基に主人公の心情の変化を読み取っている。 {言} 「おずおず」などの語句を理解し語彙を豊かにしようとしている。 [ノート・ワークシートの確認]</p>
5	<p>今の良平の気持ちを読み取ることができる</p> <p>○第5・6の場面を読み、帰宅したときの良平の気持ちを考える。 ○第7の場面を読み、立場を決めて話し合う。 ○情景描写から今の良平の気持ちを読み取る。</p>	<p>{関} 積極的に音読し、話し合いに参加している。 {読} 情景描写を基に主人公の心情の変化を読み取っている。 {言} 「気が気でない」などの語句を理解し語彙を豊かにしようとしている。 [ノート・ワークシートの確認]</p>
6 本 時	<p>感想交流し、より効果的表現を考えることができる</p> <p>○印象に残った表現や、ことばノートの語句から引用して感想をまとめる。 ○交流を通して、より効果的な感想を考える。</p>	<p>{関} 積極的に感想をまとめ、交流の中でより効果的表現を考えようとしている。 {言} 言葉の正誤・適否・美醜等について考えることができている。 [ノート・ワークシートの確認]</p>

(8) 本時の指導

「感想交流を通して、より効果的な表現を考えることができる」(6/6時間)

① ねらい

グループで感想を発表・評価し合う活動を通して、より効果的な表現を考えさせる。

② 授業仮説

感想を書き交流する場面において、相互評価し合う活動を通して言葉の正誤・適否・美醜等について吟味し、より効果的な表現を考えることができるであろう。

③ 本時の観点別評価規準




評価の観点	「国語への関心・意欲・態度」「言語についての知識・理解・技能」
評価規準	感想を交流し評価し合う中で、より表現があることに気づくことができる。
評価方法	授業内：観察・机間指導 授業後：ワークシートの提出

④ 「めざす子どもの姿」の実現に向けた授業改善(教材・発問・問い返し・過程の工夫等)

場面	工夫点(発問等)	子どもの姿
主体的に「問い」をもち、自分なりの考えをもつ		
作品やことばノートから引用し感想をまとめる場面	〔指示〕 印象に残った表現やことばノートに集めたことばなどを引用して感想をまとめてみましょう。	「どこから引用するか」「ことばノートの中で、表現に適したことばはどれか」を考える。 (個人)
他者との交流を通し、「問い」が生まれ自分の考えを広げ深める		
感想を相互評価し、より効果的な表現を考える場面	〔指示〕 感想を読み合い、より効果的な表現がないかグループで相談しましょう。	感想を相互評価する中でより効果的な表現を相談する。 (グループ)
学びの過程を振り返り、新たな「問い」をもつ		
本時のまとめの場面	〔指示〕 今日の授業を終えて「わかったこと」「気づいたこと」「交流しての感想」をまとめてみましょう。	交流を通して、より効果的な表現があることや言葉の多様性に気づくことができる。 (個人)

⑤ 展開

過程	学習活動・内容・発問・形態等	予想される児童・生徒の反応	指導上の留意点、評価等	9項目
導入 (5)	1. 前時の学習を思い出しながら本時のめあてを確認する。 {ペア}	○周囲と相談できずに生徒・目標や流れを理解できない生徒がいる。	◇ペアで相談する雰囲気を作らせ本時の学習の流れを簡潔且つ明確にする。	1 ・ 2
	本時のめあて：よりよい感想にするために、感想を交流しよい表現を探そう			

展開 1 (8)	2.		ことばノートを活用した感想まとめ (個人)	感想まとめに使っていたことば ・案じる ・憎悪 ・細々と ・至福 ・鮮明に など	2 ・ 3 ・ 4 ・ 6 ・ 9	
	展開 2 (15)	3.				感想交流後の相互評価 (グループ)
	展開 3 (12)	4.				相互評価でもらったコメントを参考に感想を手直し
		相互評価後に生徒がまとめた感想(抜粋) ※ 下線部は「ことばノート」に集めたことば				
		<ul style="list-style-type: none"> …と言われたとき、良平は<u>思い上がっていた</u>けど… …良平は<u>落胆</u>したと思います。 …毎日<u>気がめいる</u>ような気持ちで過ごしているのかなと思いました。 など 				
終末 (10)	5. 本時の振り返りをする。 {個人・一斉}	○振り返りと自己評価を行う。 (1~2名発表)	◇振り返りを記入後、ワークシートを回収する。	7		
	6. 次時の予告	○説明を聞き今後の確認をする。	◇「ことばノート」を確認する			

3 仮説の検証

(1) 具体仮説(1)の検証

検証授業Ⅰでは「少年の日の思い出」(小説)のまとめにおいて具体仮説(1)の検証を行った。

<具体仮説(1)>

感想を書き交流する場面において、別での表現で言い換えを考える活動を通して、言葉の正誤・適否・美醜等について吟味する契機になるであろう。

① 検証の観点と方法

観点	4	3	2	1	方法
言葉の正誤を吟味することができたか。	しっかり言葉の正誤を吟味することができた	まあまあ言葉の正誤を吟味することができた	あまり言葉の正誤を吟味することができなかった	言葉の正誤を吟味することができなかった	生徒感想・

言葉の適否を吟味することができたか。	しっかり言葉の適否を吟味することができた	まあまあ言葉の適否を吟味することができた	あまり言葉の適否を吟味することができなかった	言葉の適否を吟味することができなかった	ワークシート・アンケート
言葉の美醜を吟味することができたか。	しっかり言葉の美醜を吟味することができた	まあまあ言葉の美醜を吟味することができた	あまり言葉の美醜を吟味することができなかった	言葉の美醜を吟味することができなかった	

② 検証の場面

ア 感想を書き、グループで交流する場面

<p style="text-align: center;">＜教師の働きかけ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ひと言感想」をまとめる際は、文章中の根拠となる表現を必ず引用するよう声かけする。 「すごい」は使わないよう呼びかける。 感想交流の中で、自分が書いていないものが出てきたらメモを取るよう促す。 	<p style="text-align: center;">＜生徒が書いたひと言感想＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こわい ・不思議 ・わるい ・やさしい ・勇敢 ・冷たい ・悲しい ・かわいそう <p style="text-align: right;">など</p>
---	--

イ 各グループで別の表現を考え、他のグループ代表の発表を聞く場面

<p style="text-align: center;">＜教師の働きかけ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> グループの感想の中から、2つ程度感想を選び、相談して別の言い換えを考えるよう声をかける。 代表者が各グループを回り、自分のグループで出た表現紹介するように促す。 自分のグループになかった表現を書いておくよう促す。 	<p style="text-align: center;">＜グループで考えた言い換え＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こわい → おそろしい ・不思議 → 変、奇妙 ・勇敢 → 勇気がある ・かわいそう → 悲惨 <p style="text-align: right;">など</p>
---	--

ウ 行動観察による考察

個人で感想を書く場面では、教材文中でこれまでに線を引いていた箇所から「印象に残ったもの・気になる表現」を絞り、「ひと言でまとめること」と「(生徒がよく使う)『すごい』を使わないこと」を条件とした。いずれも「言葉に着目する(＝こだわる)」ことを意識させる活動であった。生徒からは「ひと言というのが難しい」などのつぶやきやこれまでの読み取りが活かされていない感想もみられたが、ほとんどの生徒がまとめることができていた。中でも、生徒Aは開始1～2分程度でまとめていた。交流する場面では、活発なグループと静かなグループがあったものの、全体的にしっかり交流できていた。生徒B・生徒Cなどは互いのワークシートを並べて比較していた。生徒Dは「こんなだよ」と教え合う場面も見られた。また、他グループの感想と言い換えを聞く際もしっかりメモを取ることができており、聞き漏らしたことを互いに教え合う姿も見られた。まとめの際には前時で読み取りをした一文に出てきた「こなごな」の辞書的な意味を教師が紹介し、言い換えの表現を10個程度示した後、微妙なニュアンスの違いと今回の文章に言い換えられそうな表現を全員で確認した。

授業後の感想からは「(言い換えるのが)難しかった」「意味が同じでも物語に合った言葉じゃないといけないと思った」など「言葉による見方・考え方」を働かせている様子が伺えるものや「みんなの意見が聞けてよかった」「どんな文章にも使える言葉ってあるのかな？」などの声が上がったことから、今回の手立ては概ね有効であったのではないかと判断する。今後の「ことばノート」作成に向けて「言葉(ことば)にこだわる意識」をもたせ、豊かな言語感覚を養う契機とすることができたのではないかと考える。

エ アンケートによる考察

授業後のアンケート結果は以下の通りである。

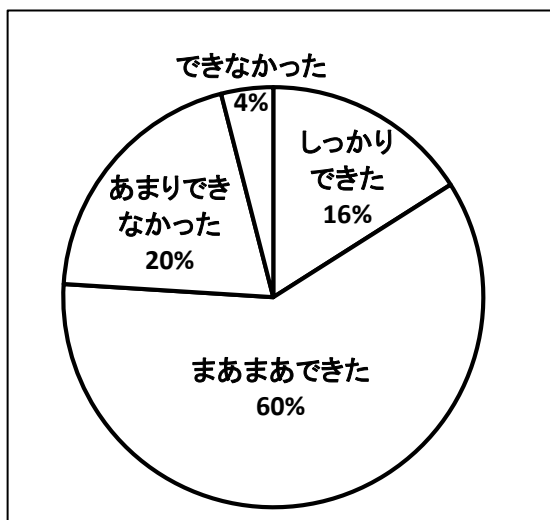


図 11 「言葉の正誤(正しい使い方かどうか)」を考えながら取り組むことができましたか？

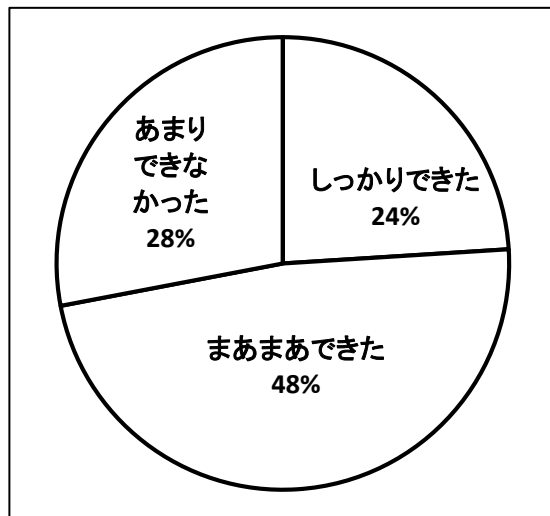


図 12 「言葉の適否(文章に適した表現かどうか)」を考えながら取り組むことができましたか？

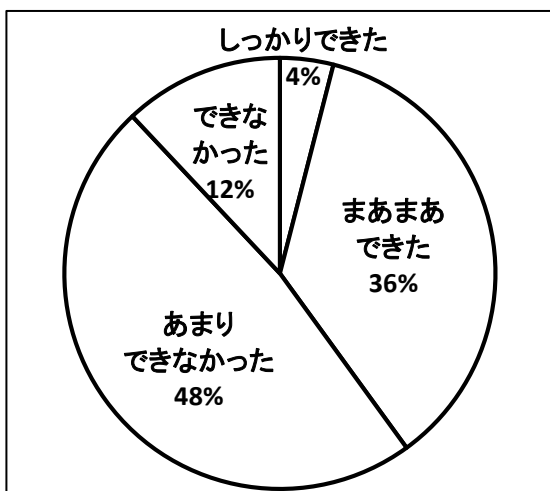


図 13 「言葉の美醜(美しいかどうか)」を考えながら取り組むことができましたか？

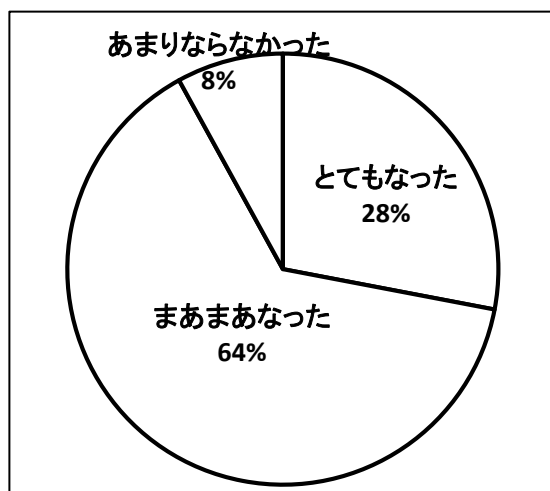


図 14 一つひとつの言葉の意味や使い方について考えるきっかけになりましたか？

「言葉の正誤を考えながら取り組むことができましたか？」という質問に、「しっかりできた」「まあまあできた」と回答した生徒は76%であった。「言葉の適否を考えながら取り組むことができましたか？」という質問で「しっかりできた」「まあまあできた」と回答した生徒は72%であった。「言葉の美醜を考えながら取り組むことができましたか？」との質問に対して「しっかりできた」「まあまあできた」と回答した生徒は40%であった。「一つひとつの言葉の意味や使い方について考えるきっかけになりましたか？」との質問に対して「とてもなった」「まあまあなった」と回答した生徒は92%であった。

以上のことから、今回の手立ては「言葉の正誤・適否について考える」「(一つの言葉にこだわり)意味や使い方を考える契機とする」という観点においては概ね有効であったのではないかと判断する。しかしながら「言葉の美醜」に関する質問で「あまりできなかった」「できなかった」との回答が60%であったことから、今後は現代文・古文などさまざまな文章を扱う中で言葉の印象・響きといった観点から言葉の「美醜」について触れる場면을意図的に設定する必要があると考える。

(2) 具体仮説(2)の検証

検証授業Ⅱでは「トロッコ」(小説)のまとめにおいて具体仮説(2)の検証を行った。

＜具体仮説(2)＞

ことばノートを作成する活動において、生徒自身でテーマを設定し、日常生活の中から言葉を集めることによって、表現活動で使うことができる語彙の量が増すであろう。

① 検証の観点と方法

観点	4	3	2	1	方法
相互評価を通して、より効果的な表現を考えることができたか。	しっかり考えることができた	まあまあ考えることができた	あまり考えることができなかった	考えることができなかった	感想・アンケート・ワークシート
感想まとめや相互評価のとき「ことばノート」を積極的に活用することができたか。	しっかり活用することができた	まあまあ活用することができた	あまり活用することができなかった	活用することができなかった	
言葉の美醜について吟味することができたか。	しっかり吟味することができた	まあまあ吟味することができた	あまり吟味することができなかった	吟味することができなかった	

② 検証の場面

ア 感想を書き、交流を通して相互評価する場面

＜教師の働きかけ＞

- ・ 感想をまとめる際は、文章中の根拠となる表現やことばノートから引用・活用するように声かけする。
- ・ 相互評価する際の視点(ポイント)を提示する。
- ・ 感想交流で自分が書いていないものが出てきたらことばノートにメモを取るよう促す。

＜相互評価から出てきた生徒のコメント＞

- ・ 「は」に直したほうがいい「わ」があった。
- ・ 「捨てるので」は「捨てているので」に直したほうがいいと思う。
- ・ 「不安」という言葉がいっぱい使われていて少し変な感じがした。
- ・ 「文をつなぐことば」の使い方がとても上手いと思った。
- ・ 「目がない」という言葉は聞いたことがあるけど、使い方が初めて分かった。 など

イ 相互評価を基に、より効果的な感想を考える場面

＜教師の働きかけ＞

- ・ 相互評価のアドバイスやことばノートの引用・活用を促す。
- ・ 机間指導を通して、作業が進まない生徒にはことばの用法の確認などを促す。

＜相互評価後にまとめた生徒の感想(抜粋)＞

※ 下線部は「ことばノート」に集めたことば

- ・ …山ぞくにはち合ったら怖いからなのか…
- ・ …と言われたとき、良平は思い上がっていたけど…
- ・ …良平は落胆したと思います。
- ・ …毎日気がめいるような気持ちで過ごしているのかなと思いました。
- ・ …幼い良平の悲痛な思いが胸に響きました。 など

ウ 行動観察による考察

前回の検証授業後(12月)、芥川龍之介の「蜜柑」を読み「印象に残ったもの・気になる表現を引用すること」「ことばノートのことばを使うこと」を示して、初発の感想をまとめる授業を行った。その際、ことばノートを活用してまとめることができた生徒は全体の31.8%であったが、今回同様の条件で初発の感想まとめ(第2時)を行った際は45.8%の生徒が活用できていた。

本時で感想まとめ(個人)をする場面では、時間内に書き終わられなかった生徒やことばノートそのものを準備できていない生徒もいたが、全体の64%が活用して取り組むことができおり、生徒Aは教科書と併用しながら主体的に取り組んでいた。

感想交流し相互評価する場面では、まず感想を一人ずつ読み上げ、その後ワークシートを回して評価コメントを書くという流れで行った。早々に感想を書き上げることができていた生徒B・生徒Cは、進んで周囲が発言しやすいような声かけをするなど意欲的に交流する姿がみられた。しかし、全体的にことばノートの活用が不十分で言葉の正誤に関するアドバイスを中心に交流が進んでいるグループや、相互評価のコメント欄が「評価」ではなく「感想を読んだ感想」になっている生徒もいた。

相互評価を踏まえて再度感想を手直しする場面においては、ことばノートの準備ができていなかった生徒Dも友だちからのアドバイスをじっくり読み直しながら真剣に取り組むことができおり、全体では72%の生徒がことばノートの言葉を使って感想をまとめることができていた。

授業後の振り返りでは「(みんなの意見を聞いて)自分が使ってなかった表現が分かってよかった」「(アドバイスをもらおうと)文がよくなるので、毎回アドバイスをもらいたい」「みんな、目のつけどころもそれを表す言葉もいろいろ違うので勉強になったしおもしろかった」「感想まとめにも使えたし、ことばノートをやってよかったなと思いました。」などの感想が見られた。92%の生徒が好意的な感想をまとめていたことから、相互評価やそれを踏まえて感想を手直しする活動は、主体的に学びに向かう姿勢を養うとともに自分や他者の使っている言葉にこだわり、「言葉による見方・考え方」を働かせながら豊かな言語感覚を養う契機とすることができたという点では、概ね有効であったのではないかと判断する。しかし相互評価のコメントやグループ活動の様子から今後は実際の表現活動や交流におけることばノートの活用の仕方、内容の個人差を改善するためのさらなる手立てが必要であると考えられる。

エ アンケートによる考察

授業後のアンケート結果は、以下の通りである。

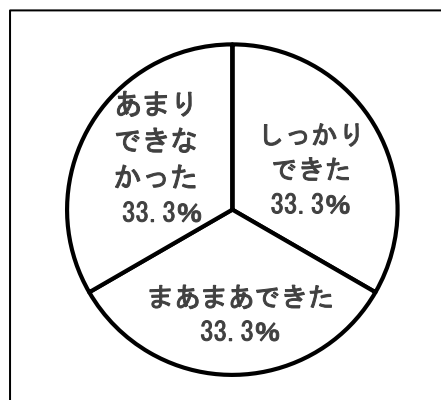


図15 相互評価を通してより効果的な表現を考えることができましたか？

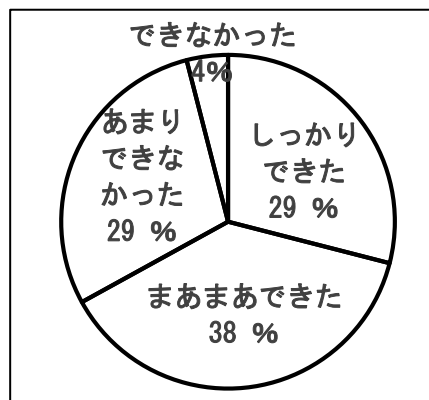


図16 感想まとめや相互評価のときに「ことばノート」を積極的に活用することができましたか？

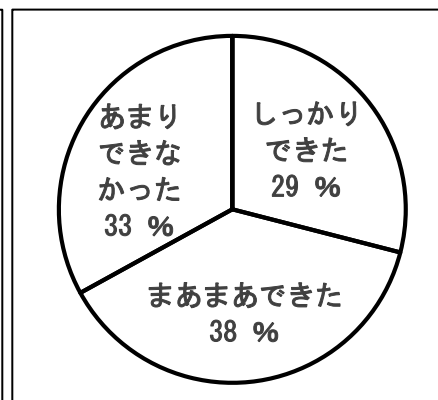


図17 「言葉の美醜(美しいかどうか)」を考えながら取り組むことができましたか？

「相互評価を通してより効果的な表現を考えることができましたか？」という質問では約66%の生徒が「しっかりできた」「まあまあできて」と回答した。また「感想まとめや相互評価のときにことばノートを積極的に活用することができましたか？」という質問には67%の生徒が「しっかりできた」「まあまあできて」と回答した。これら二つの項目ではほぼ同程度の結果が表れていることから「言葉による見方・考え方」を働かせ、より効果的な表現を考える手立てとして、ことばノートの活用は有効であったのではないかと考える。

また、前回のアンケートで「あまりできなかった」「できなかった」と回答した生徒が60%にも上った「言葉の美醜(美しいかどうか)を考えながら取り組むことができましたか？」との質問では、今回同様の回答をした生徒は33%に留まるなどの改善がみられた。これは、今回教材に入る前に「食べる」「食う」「いただく」「召し上がる」などを例に挙げ「言葉の正誤・適否・美醜」について考えたり、また読解の授業で教材文に出てきた「ぶちまける」「放り出す」など一つの言葉にこだわったりする中で、美醜について意識する時間を作ったからではないかと考える。

今後は、グループ活動におけることばノートの効果的な活用の仕方や日々の授業の中で「言葉」にこだわり「正誤・適否・美醜」を意識させる言語活動を取り入れた単元の指導計画作成・発問の仕方について研究を深め、授業の質を高めていきたい。

オ ことばノートによる考察

ことばノートは第1回検証授業後、平成29年11月～平成30年2月の約三ヶ月間で計9回実施し、第3回以降は生徒自身でテーマを設定して取り組んだ。

表2 ことばノートのテーマと生徒が集めたことば

	集めることばのテーマ(課題)	生徒が集めたことば
第1回	「思い～」がつくことば	思い余る・思い至る・思いはせる・思いの他 など
第2回	「感じ」を表すことば	夢うつつ・愉悦・苦りきる・野趣・遺憾の意 など
第3回以降	生徒自身が設定したテーマの例 「本に出てきたことば」 「笑いに関することば」 「声に関することば」 「顔がつくことば」 など	耿々(こうこう)・斜陽(しゃよう)・絢爛(けんらん) もの笑い・忍び笑い・盗み笑い・ほくそ笑む・朗笑(ろうしょう)・憫笑(びんしょう) 金切り声・怒鳴り声・怒号・低声・濁声(だみごえ) 喜色満面・仏頂面・憂顔(ういがお)・顔負け など

開始当初は国語が苦手な生徒も「今回は3つしか集められなかった」「自分は7個集めたよ」など前向きに取り組む姿が見られた。しかし、回を追うごとに「そろそろテーマのネタが尽きてきた」「(ことばノートを)作ろうと思うけど何を書けばいいかわからない」という声があがってきた。そこで第5回(1月中旬)以降は生徒たちが「集めたことば」や「私の黄金言葉(くがにことば)」を表にまとめ、学年の廊下に掲示した。

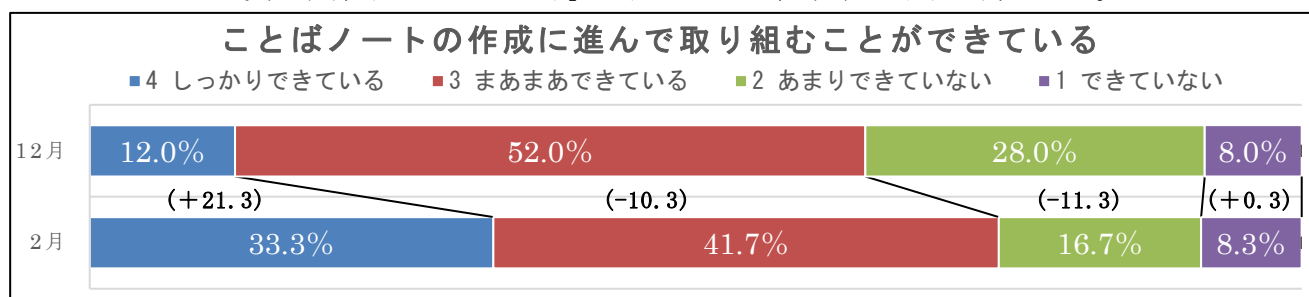


図18 ことばノートの作成について

掲示後は、それまで提出が滞りがちだった生徒やあまり意欲的でなかった生徒も表の中から「初めて知ったことば」などを探して取り組みはじめた。その後のアンケートでは、「(進んで取り組むことが)しっかりできている」「まあまあできている」と回答した生徒は掲示前に比べて11%増加し、75%であった(図18)。活用に関する質問に対しても「よく使っている」「使っている」と回答した生徒が27%増加しており(図19)、今回の授業でも実際の感想まとめにつなげることができていた生徒の割合が、作成開始直後より増加していた(図20)。

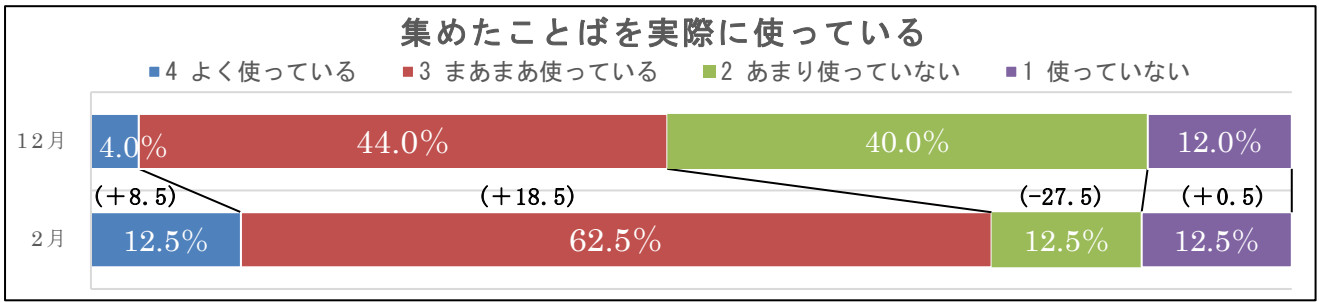


図19 ことばノートの活用について

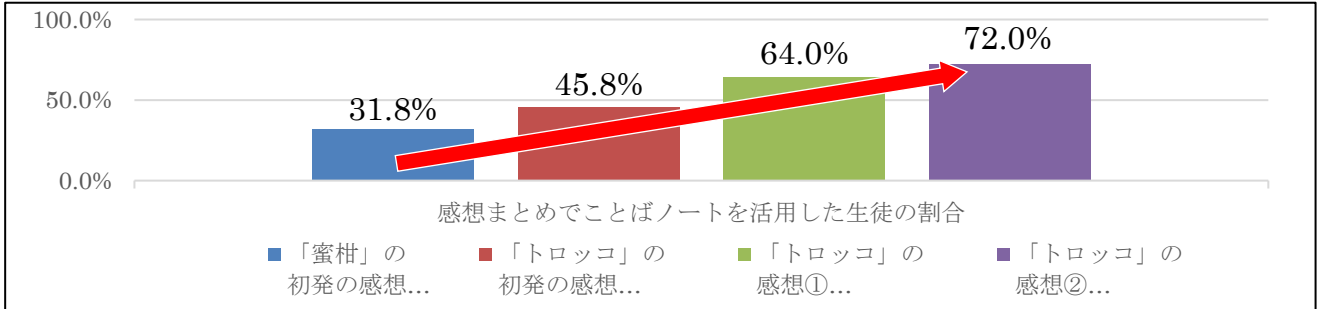


図20 ことばノートを活用した生徒の割合の推移

また、活用を意識して作成に取り組んでいる生徒は心情を表す語句を中心にことば集めを進めており、少しずつ実際の表現に役立てることができるようになってきた。

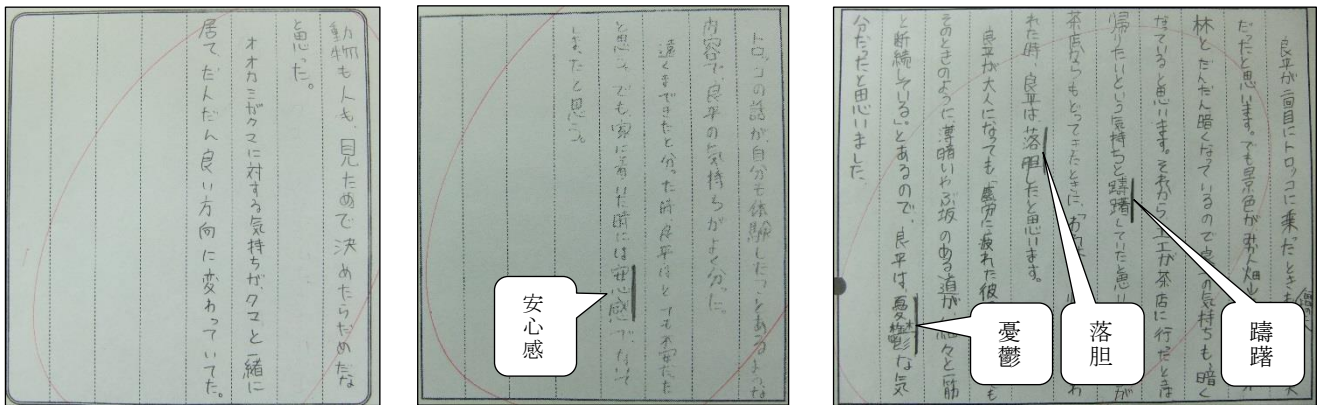


図21 生徒がまとめた感想(左:4月に書いた感想 中:初発の感想 右:相互評価後の感想)

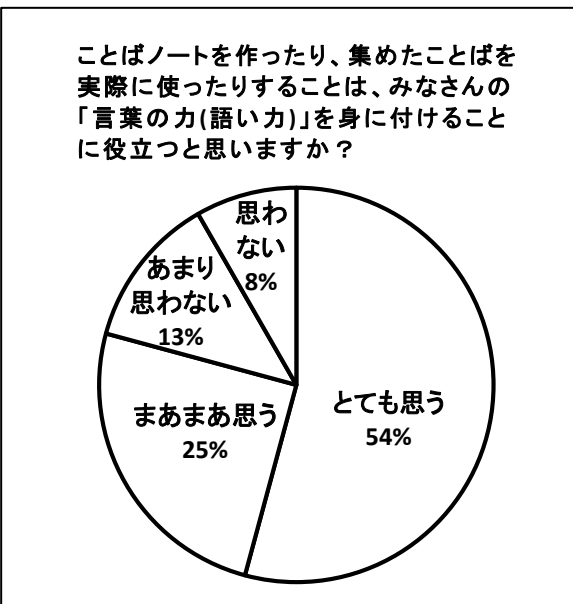


図22 ことばノートの有効性について

ことばノートについて、79%の生徒が「(語彙力の育成に役立つ)とても思う」「まあまあ思う」と回答した(図22)。その理由として「作ることで多くのことばに触れることができる」「言葉の知識や力がつく」「難しい言葉を使って感想書くときに語彙力が上がったと思う」などの意見があった。また、「あまり思わない」「思わない」と回答した生徒からは「テーマを決められないで困った」「提出期限がわかりにくかった」「出さないと成績が下がるから嫌だ」などの声が聞かれ、ほぼ全員が「(集めたことばを)使っていない」「あまり使っていない」と回答していた。これらのことから、ことばノートを作成して表現活動に役立てていくことは生徒の語彙量を増す手立ての一つとして有効であったのではないかと考える。今回は1年生の学習内容の中で特に「心情を表す語句」を中心にことばを集めたが、今後も計画的・継続的な取り組みを行い「類義語・対義語・同音異義語(2年)」や「慣用句・四字熟語(3年)」などのことば集め

を体系的に進めることによって少しずつ語彙の量も充実していくのではないかと考える。

また、ことばに対する興味・関心の個人差を踏まえ「実際に使った(使われている)言葉の正誤・適否・美醜」を考える際の積極的な活用やことばノートを使った交流の時間を単元の指導計画に組み込むことで、より効果的な活用と語彙の質を高める指導の工夫・改善を目指すとともに、課題提示の仕方や家庭学習・学習評価への位置づけなど生徒自身の主体的且つ中・長期的な取り組みにつながる手立ての研究に努めていきたいと考える。

Ⅶ 研究の成果・課題・対応策

1 成果

- (1) 他者との交流を通して、言い換えの表現を考えたり相互評価を行ったりすることで、効果的な表現の工夫や、「言葉による見方・考え方」を働かせながら「言葉の正誤・適否・美醜になどについて考える(=言語感覚を養う)」契機とすることができた。
- (2) 自分でテーマを設定してことばノートを作成したり、相互評価に活用したりすることでこれまで気づけなかった表現やことばに出会い、語彙量を増やす契機とすることができた。
- (3) 線を引いた文から自ら引用する箇所を選んで感想をまとめたり、他者と交流したりすることは「主体的・対話的で深い学び」の視点からも概ね有効であった。

2 課題・対応策

- (1) 「ことばノート」の作成が十分定着できなかった生徒もいた。今後は、課題提示の仕方や家庭学習との連動・学習評価への明確な位置づけなどをしっかり検討した上で、年度始めから取り組みを進めていきたいと考える。
- (2) 「ことばノート」の活用に消極的な生徒や内容に個人差がみられた。今後は、集めたことばを互いに紹介・評価し合ったり、使った言葉の正誤・適否・美醜などについて考えたりする場面を設定し、主体的な取り組みにつなげていきたいと考える。
- (3) 語彙を確実に身につけさせることを目指し、活用につながる体系的なことば集めや課題提示、単元の指導計画作成を継続していきたいと考える。

〈参考・引用文献〉

- 文部科学省 2017.6 「幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」
文部科学省 2017.6 「中学校学習指導要領解説 国語編」
文部科学省 2017.3 「中学校学習指導要領」
文部科学省 2017.3 「中学校学習指導要領 比較対照表」
中央教育審議会 2016.12.21 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」
中央教育審議会 教育課程部会 2016.8.26 「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ(案)〈別紙一覧〉」
文部科学省 2008.3 「教科書の改善・充実に関わる調査研究報告」
浅田孝紀 1992.8.1 「言語感覚」の概念に関する一考察 『人文科教育研究』 19号 101頁
岩波書店 1991.11.15 広辞苑 第四版 新村出 編

〈参考URL〉

- 宗我部義則 2015.10.15 第7回 語彙指導 - 「言葉の宝箱ノート」 - みつむら web magazine
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp/webmaga/kokugo/detail07.html>
文部科学省 2008.3 「教科書の改善・充実に関わる調査研究報告」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/seido/08073004/002/010.htm
浅田孝紀 1992.8.1 「言語感覚」の概念に関する一考察 『人文科教育研究』 19号 101頁
https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=4745&item_no=1&page_id=13&block_id=83